

弘前城跡天守台発掘調査 報道公開資料

日時：令和7年7月4日（金）13時00分～
場所：弘前城本丸天守台

(1) 天守台北西杭設置部の調査成果

調査成果概要

今年度の発掘調査は天守耐震補強工事に伴うもので、天守を支える4本の基礎杭のうち、北西杭と南西杭の設置箇所で行っています。北西杭設置部では、築城から天守台が築かれる直前までの間にあった3時期の生活面（整地層）とそれに伴う礎石跡や柱穴、南西杭設置部では、昨年度の調査で発見した縄文時代晩期の盛土遺構の延長部分を検出しました。

【北西杭設置箇所における天守台築造前の状況と土層堆積状況】

文化期に天守台が築かれる前の本丸南東隅には築城当初から辰巳櫓台が築かれていたと云われており、櫓台の規模は現在の天守台より一回り小さく、北西杭設置箇所の大部分は天守台が築かれるまで本丸の平場でした（図1）。北西杭設置箇所の土層堆積状況をみると、文化期に築かれた天守台石垣の盛土の直下に小石が敷き詰められた整地層（敷石層）、17世紀中頃以降に造成された灰白色土の整地層、築城時（約410年前）に造成された橙色粘土の整地層が堆積しており、各層の上面から礎石や柱穴等の遺構が掘り込まれていたことから、築城から天守台が築かれるまで3時期（Ⅰ～Ⅲ期）の生活面があったことが分かりました（図2、写真1）。

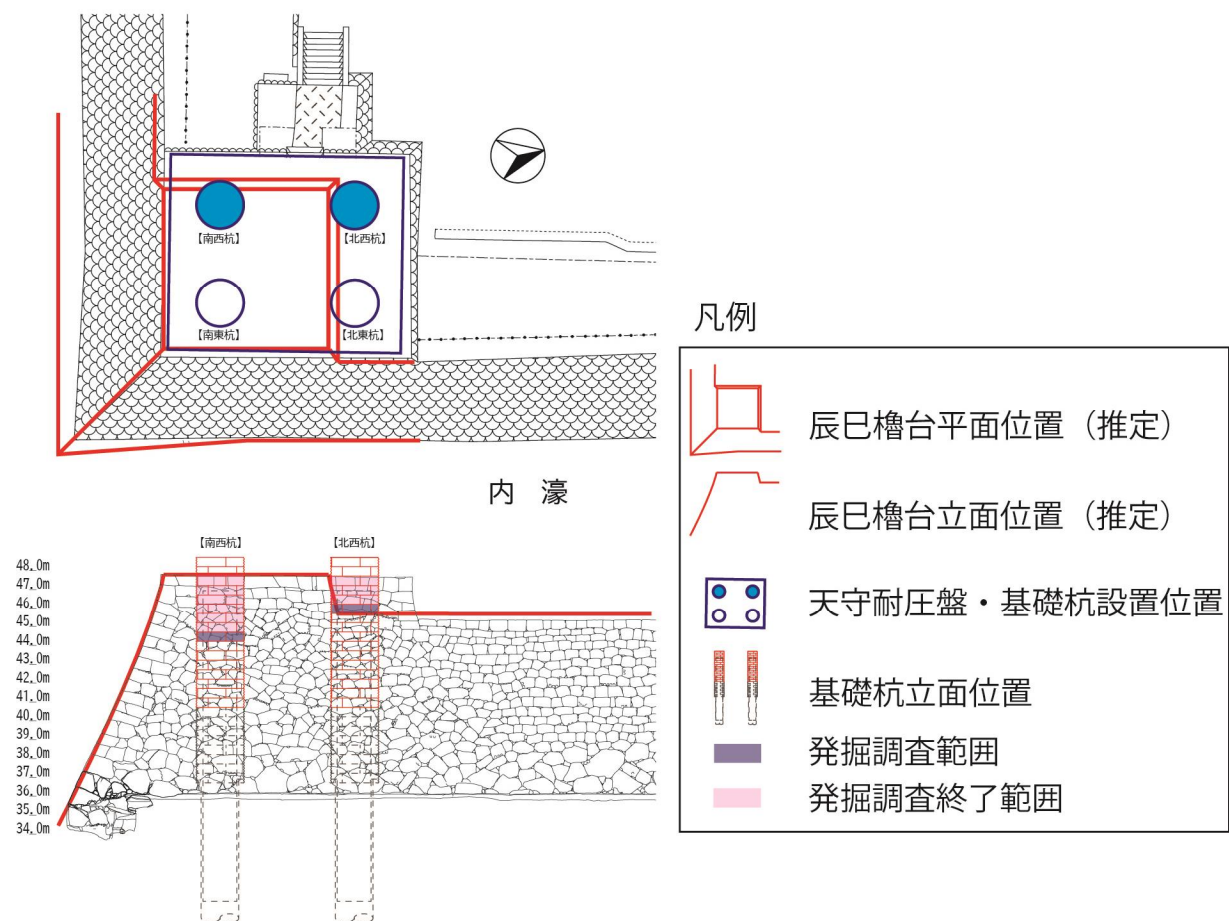


図1 辰巳櫓台（推定）と天守台の合成位置図



写真1 北西杭設置部の土層堆積状況

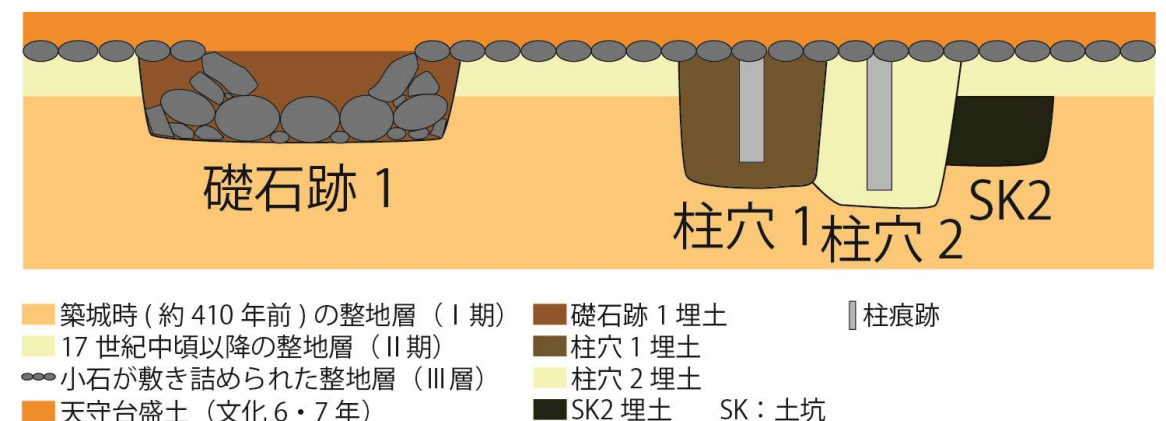


図2 北西杭設置部の土層堆積状況と遺構掘り込み面模式図

各期の遺構と遺物

【Ⅰ期】

築城時（約410年前）の整地層上面を生活面とする時期で、遺構はSK2が該当します（写真1）。SK2は黒色土を主体とする埋土で、縄文土器片が出土しています。

【Ⅱ期】

17世紀中頃以降に造成された灰白色土の整地層上面を生活面とする時期で、遺構は柱痕跡がみられる柱穴1・2（写真2・3）、SK1が該当し、それぞれは重複しており、柱穴1が最も新しく、柱穴2が最も古いものになります。配置位置から柱穴1・2は同一掘立柱建物の一部で、作り替えが行われたものと考えられます。遺物は柱穴2の掘り方構築土から17世紀中頃の磁器碗片（肥前産）が出土しています（写真4）。

【Ⅲ期】

敷石の整地層を上面とする時期で、造成時期の詳細は不明ですが、文化期に天守台が築かれる直前まで機能していた生活面と考えられ、遺構は礎石跡1が該当します（写真5）。礎石跡1は礎石が抜き取られており、その下の根石のみが残っていたことから（図2）、文化期に天守台を築く際に礎石が抜き取られたものと想定されます。また、礎石跡1は柱穴1・2に隣接する位置にあることから、Ⅱ期からⅢ期へ移行するタイミングで同一建造物を掘立柱建物から礎石建物に作り替えたと考えられます。

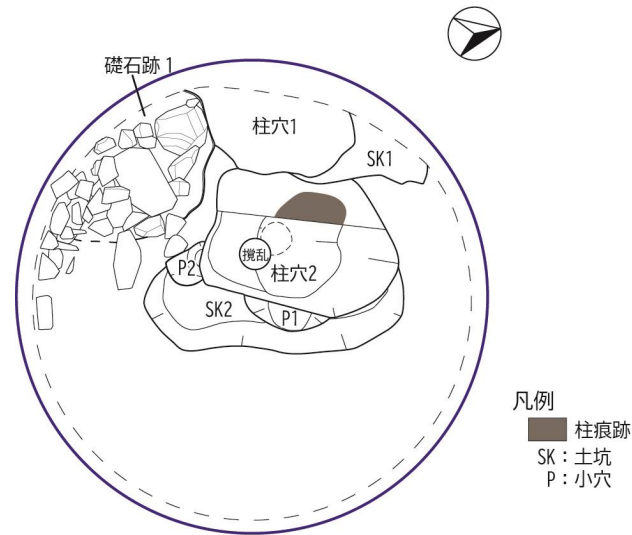


図1 北西杭設置部遺構全体図



写真1 SK2 検出状況
右下の黒色土がSK2



写真2 柱穴1 断面



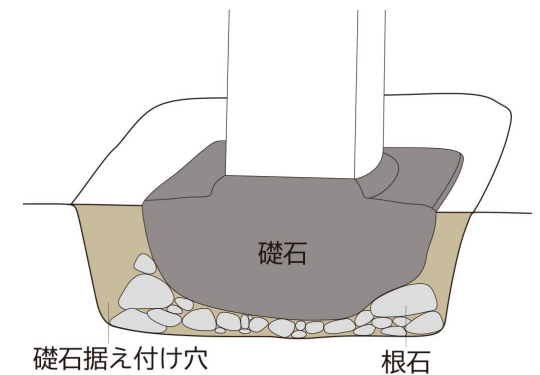
写真3 柱穴2 断面



写真4 柱穴2 から出土した肥前産の碗片



写真5 礎石跡1 検出状況
礎石は取り除かれ、根石のみ残存



『平城第370次調査 平城宮朝集院の調査 現地説明会資料』より転載

図2 礎石断面イメージ図

【絵図の検討】

北西杭設置箇所が描かれた絵図は「弘前御城御指図」（制作年代不明）（図1）や「弘前城本丸御殿絵図」（制作年代寛文13年～文化7年：1673～1810）（図2）等があり、それらの絵図には櫓台北側に多聞櫓等が描かれていることから、検出した柱穴1・2や礎石跡1はその一部の可能性が考えられます。

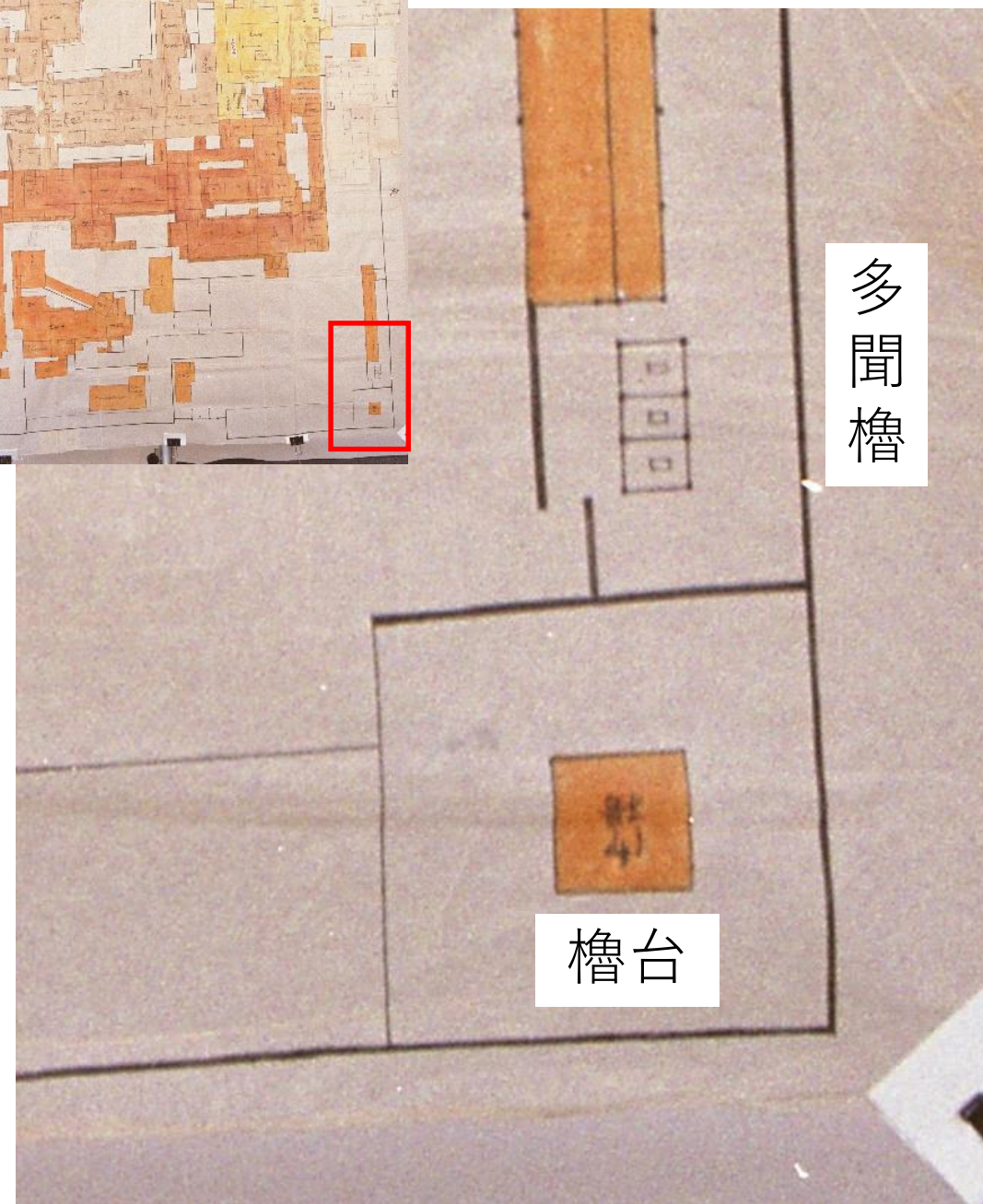
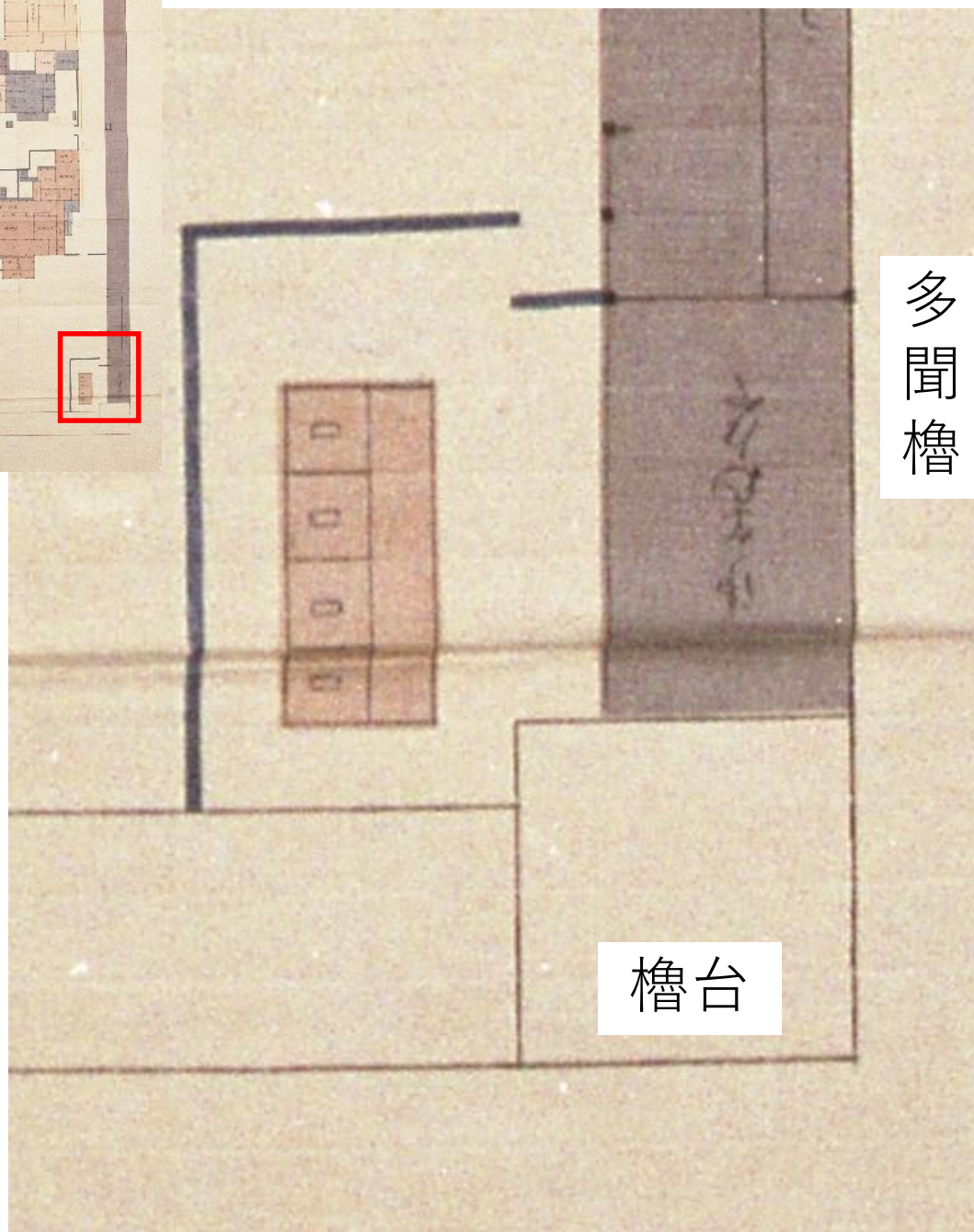
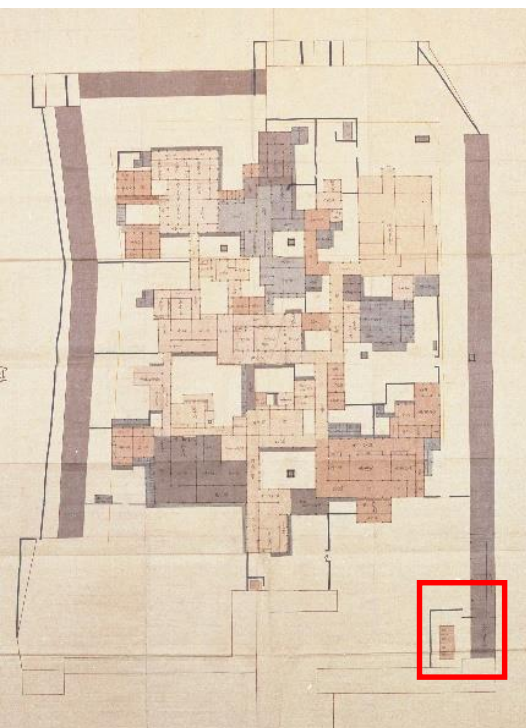


図1 「弘前御城御指図」（制作年代不明）（右下：赤枠拡大部）
弘前市立弘前図書館所蔵

図2 「弘前城本丸御殿絵図」（制作年代寛文13年～文化7年）
（右下：赤枠拡大部）弘前市立弘前図書館所蔵

(2) 天守台南西杭設置部の調査成果

調査成果概要

標高44.2～47.2mの範囲で掘削・調査を行い、天守台石垣に伴う文化期の盛土、その直下で17世紀中頃～寛文13年（1673）に築かれたと推定される石垣の裏込めを検出し、標高44.5m付近で慶長期の盛土と昨年度の調査で検出した縄文晩期中葉～後葉の遺物包含層と盛土遺構の延長部分を検出しました（写真1・2）。検出した盛土遺構の規模は長さ約1.9m、幅約60cmで、北・西・東側は工区外へ延び、南側は石垣の裏込めに壊され消失していました。盛土遺構からは縄文晩期中葉～後葉の土器（大洞C2・A式土器、写真3・4）や剥片石器が大量に出土しています。

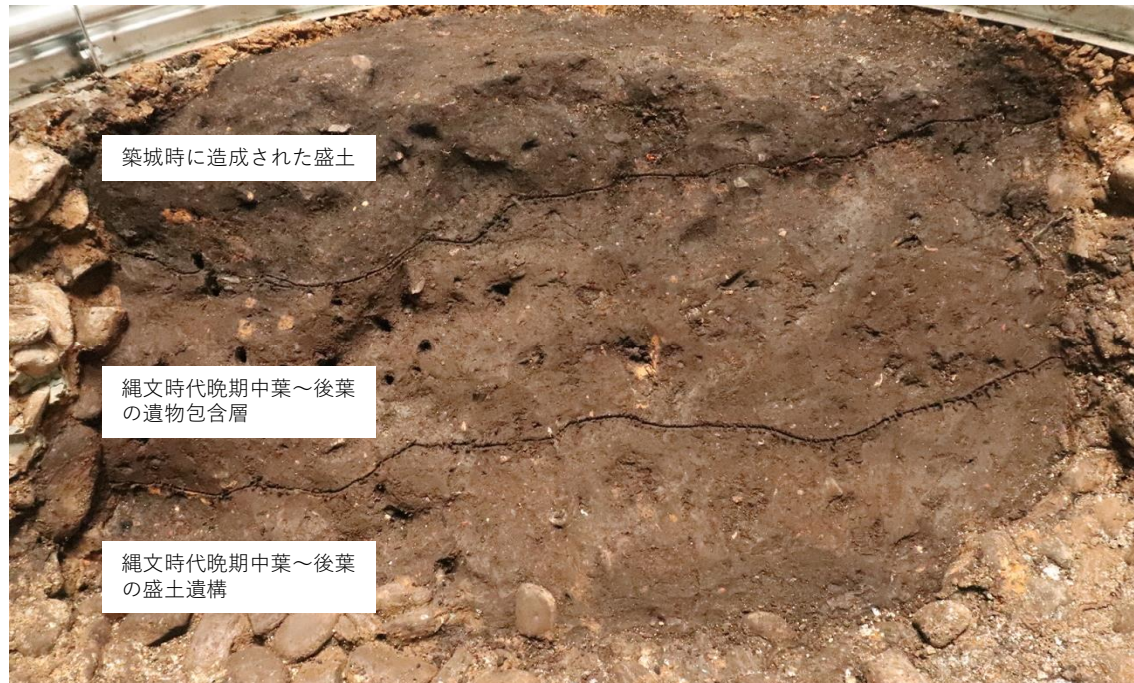


写真1 南西杭設置部土層堆積状況



写真2 盛土遺構検出状況（南から撮影）
南側は石垣の裏込めによって壊され消失している



写真3 盛土遺構遺物出土状況①



写真4 盛土遺構遺物出土状況②